

日本篆刻家協会会報

第8号 平成24年3月31日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX 072-760-3853
E-mail : info@n-tenkoku.jp

新年度がスタート 規約により理事長が交代



第1回理事会で新理事長を選出

新年を迎え、最初の行事となる第一回理事会が一月九日成人の日に開催された。平成二四年度がスタートする方向性を協議した。日本篆刻家協会規約第一〇条の規定により山下方亭前理事長は任期満了となり、後任に尾崎蒼石氏を第三代理事長として決定した。

山下前理事長は梅舒適初代理事長の後を受け二期四年理事長を務め、創立二五周年記念事業をはじめ数々の実績を残し、協会運営に寄与した。規約により常任顧問に昇格する。

披露される新任の常務理事



井谷副理事長の音頭で乾杯



引き続き全国各地からの会員が一堂に会し、新年会が大阪市中央区の錦城閣で開催され二〇八人が参加した。



恒例の福引 じゃんけんゲームで争奪戦



役員作品をゲットし披露する喜びの会員



全国各地から会場いっぱい参加者

24年度総会

平成24年度総会が2月12日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国各地から役員、会員計244人が参加した。



全国からの会員が参集した総会の審議の様子

も原案通り承認決定され、別表のとおり役員が承認された。また、役員展開催と義捐金などにより古河市から贈られた感謝状の紹介、



退任挨拶をする山下前理事長

総会に先立って企画委員会、第二回理事会が開かれ、新理事長のもと新たな陣営での今後の協会の運営について協議された。
午後二時からの総会は、喜多代表理事の司会により進行。まず、山下方亭前理事長から退任挨拶があり、尾崎新理事長が議長を務め議事が進められた。平成二十三年度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、平成二十四年度事業計画案、同予算案が提案され、いづれ



総会に先立つ第2回理事会

大村新副理事長の発声で乾杯し開宴



大勢の参加者で賑わう懇親会

講師は尾崎蒼石新理事長、「戦国古璽の魅力」と題して、文字の面白さと自由奔放な布字構成、表現方法も多岐多様に亘ると紹介し、「作品制作の一助になればと願う」と講演した。
続いて午後四時から懇親会が開催された。和気藹々とした雰囲気、全国各地からの参加者は交流を深め合っていた。

講演する尾崎新理事長



シンガポールとの海外交流を行う計画など井谷副理事長から報告された。
総会に引き続き講演会が開催された。



理事長に就任して
尾崎蒼石

この度、理事長に選任され身の引き締まる思いです。

前任の山下方亭先生は、創立二十五周年記念事業や日中名家刻印選、中国名家楹聯集の出版、会報創刊等々の事業に取り組み協会の運営を先導されたことに對し、心から敬意と感謝を表する次第です。

日本篆刻展は本年二十八回展を迎えます。協会も会員数が若干減少傾向にあり、このまま何も手を打たなければ更に減少すること危惧しており、この危機を何とか食い止めなければなりません。これに對して私が考えている案を少し書かせていただきます。これらの案は、企画委員会、理事会などの場で検討や議論を重ね、成案を得て実行に移さなければなりません。

一、日本篆刻展に高校生の部を新設し、若い人の参加を促していく。

二、小中学生を対象とした親子篆刻教室を全国各地で開催する。全国を北海道、東北、関東、中部、北陸、近畿、中国、四国、九州の九ブロックに分け、評議員、常任委員クラスが担当する。

三、会員増強運動を無理のない程度に推進する。各印社単位或は個人が行い、会員増に繋がる顕著な結果が認められた場合には、褒賞を贈呈するなど。

これ以外にも案がありましたら、どしどし協会事務所まで送ってください。日本篆刻家協会創始者であり私たちの先師、梅舒適先生が逝去されて四年が近づいて参りました。先生を顕彰させていただくために、日本篆刻展に併催の形で、遺作展を開催させていただきます。併せて遺作集の刊行や記念会を考えていかなければならないでしょう。この案件も早急に企画委員会、理事会などで検討し結論を出さなければと考えております。

本年も古河市の篆刻美術館で役員展を計画しており、八月には中央研究会も開催します。大勢の会員皆さんの参加を希望しております。

最後にになりましたが、我が国唯一の篆刻公募展を更に発展させるために、微力ではありますが頑張っていく所存です。役員、会員の皆様のお力添えを心からお願ひ申しあげ、就任のご挨拶といたします。

平成二十四年度役員

【常任顧問】

山下方亭

【理事長】

尾崎蒼石

【副理事長】

井谷五雲

【代表理事】

市川西僊

【名誉理事】

久米義山

【常務理事】

伊佐治祥雲

黒田玉洲

武井岳峰

長谷川帰海

保田昌石

【参事】

師子堂房翠

【理事】

足立瑞泉

大田桂翠

加納孝志

輿水泥魚

永井龍法

広瀬大濤

【参与】

荒崎浄仙

太田華香

楠土翠

清水抱石

中野桂鶴

松田泰軒

安田正

【評議員】

青木麗代子

阿部祥蔵

石亀明峯

稲垣華扇

梅原玉翠

岡田桂舟

加藤静雲

岸村爽風

木村容庸

久保南芳

坂上香艸

鈴木紀山

高野弘深

田中瑞峰

寺田和仁

桃睦苑

中林千影

西浦光洋

島穆風

林旦山

藤村香代子

古野燕安

本郷紫香

増田繁治

松田静石

水巻游光

南敏子

桃井泰道

山根容園

山本恵子

横井青蓮

吉田雅風

渡部芳月

浅野祥雲

天野心淵

石原雲木

今村重圃

江崎保子

小川匪石

加藤正順

北田成磊

木本研塵

後藤太郎

関踏青

竹内立女

田原貞山

寺田清雲

得永春水

仲森蓬園

西浦壽碩

畑間青露

服部九姚

原田恵苑

堀口秀雄

牧野象山

松井翠香

松本清苑

南輝代

村田祥風

山田青溪

山室雅美

山谷加津子

横山龍児

吉田宗里

渡辺北舟

浅野和泉

池田蘆翠

伊藤錦汀

上松莊夢

大橋安泰

小川碧仙

北野河聲

串田一逕

嵯峨洛山

下井嶺葉

関田幹雄

多田稔里

巽聖石

鷹取千豊

正和香葉

酒井好雨

千蔵天空

寺本翠葉

土井純司

戸出九廬

中島大夢

滑田寒鴉

庭田露舟

花村秀嶽

坂正歩

藤川富美恵



代表理事に昇格の3人

九月課題

「冰壺秋月」

一〇月課題

「長安樂」

役員(尾崎蒼石選)



祥風



安泰



立女



桂舟



容庸

常任委員(伊藤雅夫選)



紅舟



韶嘩



紀翠



景雲



轉丘

委員(喜多芳邑選)



映舟



正明



仙華



澄子



啓子

會員(黃平齋選)



和雄



滋



凌峰



蘆山



筆山

一般(榊原晴夫選)



秀華



弘子



勝山



一哉



柳石

役員(平田蘭石選)



祥風



祥廬



踏青



祥雲



容庸

常任委員(佐川大羊選)



美華



韶嘩



汀華



見聲



誠二

委員(南岳泉露選)



葉蓉



墨石



道男



群蛙



叢映

會員(長谷川綿海選)



隆峰



蘆山



教行



堯夷



昌子

一般(古溝幽畦選)



公一



豊



勝山

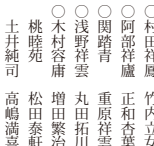


康夫

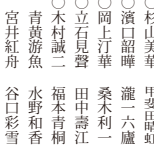


香

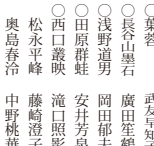
役員(上松莊夢選)



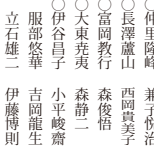
竹内立女



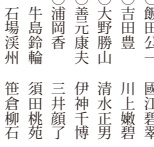
丸田拓川



木村容庸

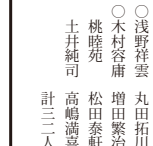


青真游魚

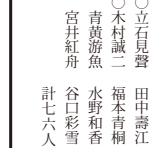


宮井紅舟

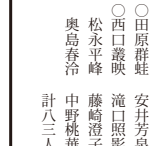
常任委員(井本敏子選)



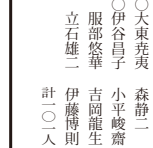
阿部祥廬



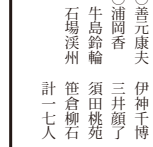
岡上吉華



立石雄二

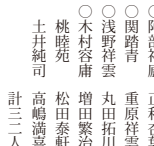


服部悠華

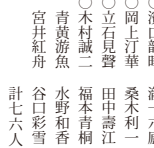


伊藤博則

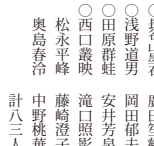
委員(杉原照楓選)



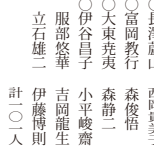
武友早知



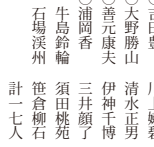
廣田笙鶴



岡田郁夫

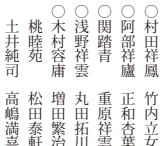


森俊悟

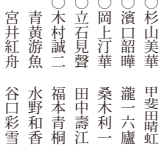


伊谷昌子

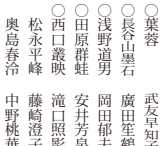
會員(原田泰久選)



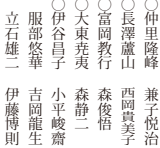
仲里隆峰



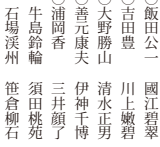
西岡美子



大野勝山

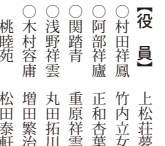


清水正男

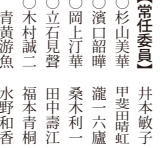


伊神千博

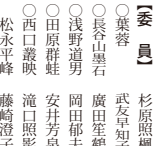
一般(長谷部石舟選)



飯田公一



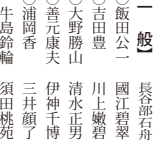
川上敏碧



國江碧翠



三井顔子



須田桃苑

役員(榊原晴夫選)

常任委員(伊藤雅夫選)

委員(喜多芳邑選)

會員(黃平齋選)

一般(榊原晴夫選)

役員(上松莊夢選)

常任委員(井本敏子選)

委員(杉原照楓選)

會員(原田泰久選)

一般(長谷部石舟選)

一二月課題

「朽木不折」

役員(真鍋井蛙選)



明峯



繁治



祥鳳



立女



踏青

常任委員(渡邊和琴選)



壽江



汀華



青桐



彦裔



尚子

委員(伊佐治祥雲選)



大



素翠



香華



平峰



浩

會員(御手洗眉山選)



敬次



静二



華泉



哲舟



堯夷

一般(保田昌石選)



智子



溪州



石舟



弘子



正男

役員(石龜明峯)

○石龜明峯 今村董圃
○增田敬治 古瀬章石
○村田祥鳳 桃陸苑
○竹内立女 大橋安泰
○関路青 浅良朱華
○烟間青露 島穆風
○浅野祥雲 水巻游光
計三十七人

常任委員(田中壽江)

○田中壽江 田中九成
○寄田龍神 寄田龍神
○岡上汀華 奥島舟丘
○福本青桐 青黄游魚
○大槻彦高 長川拓石
○藤浅翠 漫浅翠嶺
○大庭景雲 多田字友
○上田静雲 西谷龜石
計七十六人

委員(中石象堂)

○中石象堂 加藤臥牛
○三原大 笹倉柳石
○宮越素琴 武友早知子
○大泉香華 井本究石
○松永平峰 山下登雲
○藤井浩 池谷室樹
○吉崎靈堂 川久保明
計八十五人

會員(藤本忠義)

○藤本忠義 北畑謙之
○中島敬次 伊井啓
○森靜一 富岡教行
○内藤華泉 小貫剛
○内田哲舟 山崎隆平
○大東堯夷 中井榮子
○木村行次 田辺碧水
○奥島梅浦 田辺碧水
計一〇八人

一般(大野勝山)

○大野勝山 須田桃苑
○板屋智子 須田桃苑
○石場溪州 正田
○長谷部石舟 伊神千博
○北岡弘子 國江碧翠
○清水正男 北出史郎
○廣森勝竹 小澤一哉
○吉田豊 宮坂孤田
計一九九人

一二月課題

「壬辰」

役員(大村高稜選)



杏葉



明峯



游光



弘深



踏青

常任委員(石原豊玉選)



尚石



静雲



蘇碩



燕安



舉仙

委員(市川西僊選)



信子



大



春草



究石



美智子

會員(伊藤雅夫選)



公子



功勝



扇舟



良孝



龍泉

一般(喜多芳邑選)



勝山



公一



碧翠



弘子



勝竹

役員(竹内立女)

○竹内立女 今西九郎
○正和杏葉 坂正步
○石龜明峯 今村董圃
○水巻游光 今村董圃
○関路青 阿部祥嵐
○上松莊夢 遠藤菜子
○阿部祥嵐 遠藤菜子
計三十八人

常任委員(立石見聲)

○立石見聲 網上下華
○渡邊尚石 網上下華
○丸山蘇碩 吉田鏡水
○古野燕安 荒崎淨仙
○田中泉仙 森川惠扇
○大槻彦高 番定静山
○小澤博石 長谷山巖
計七十一人

委員(廣田笙鶴)

○廣田笙鶴 高城玲子
○香川公子 兼平悅治
○天海信子 谷啓子
○三原大 益邑隆
○畑春草 平松清嗣
○井本究石 松永平峰
○竹村美智子 内本場八夫
○川久保明 高橋忠義
計八十七人

會員(大井智香)

○大井智香 須田桃苑
○大野勝山 須田桃苑
○飯田公一 吉田董
○和田扇舟 木村行石
○相川良孝 月森康生
○三枝龍泉 北畑謙之
○中島敬次 刑部玉水
○船山竹峰 松本大岳
計一〇三人

一般(木村忠男)

○木村忠男 石場溪州
○國江碧翠 伊神千博
○北岡弘子 宮坂孤田
○廣森勝竹 安喰冬雲
○清水正男 板屋智子
計一六八人

一月課題

「長生和氣」

役員(酒居石莊選)



踏青



立女



容庸



祥雲



祥廬

常任委員(黃平齋選)



知洲



拓石



素月



游魚



白峰

委員(榊原晴夫選)



八夫



嘉信



明



双龍



叢映

會員(佐川大羊選)



榮子



堯夷



春壽



極浦



倫子

一般(南岳泉靈選)



勝山



碧翠



桃苑



勝竹



保雄

【役員】 島藤風

【常任委員】 中野聡

【委員】 長谷山墨石

【會員】 森清光

【一般】 石場漢州

○関路青 浅野祥雲

○小谷知洲 矢野龜山

○内木場八夫 奥島春冷

○中井榮子 木村行石

○大野勝山 木村忠

○竹内立女 浅野祥雲

○杉本素月 渡邊尚石

○伊藤嘉信 廣田幸鶴

○大東堯夷 小林眞節

○須田桃苑 長谷部舟

○木村容庵 今西九郎

○杉本素月 渡邊尚石

○伊藤嘉信 廣田幸鶴

○大東堯夷 小林眞節

○須田桃苑 長谷部舟

○重原祥雲 古瀬草石

○青島游魚 上田静雲

○川久保明 三原大

○奥島極浦 内藤正男

○須田桃苑 長谷部舟

○阿部祥庵 水睦苑

○銀田白峰 石川無外

○西口叢映 市川桂水

○松本倫子 森井昌雲

○中島保雄 飯田公一

今村重圃 水巻游光

田中壽江 館智舟

服部和代 八木正明

松原凌峰 青山正入

服部和彦 計一四人

二月課題

「爰得我娛」

役員(市川兩僊選)



祥廬



踏青



穆風



泰軒

常任委員(武井岳峰選)



竹扇



鏡水



早知子



惠草



胡蝶

委員(堤白遊選)



嘉信



平峰



翠龍



究石



道男

會員(中村葉舟選)



康生



龍泉



泰久



梅風



榮子

一般(長谷川帰海選)



智子



保雄



碧翠



顔了



溪州

【役員】 関野宇越

【常任委員】 篠浦錦風

【委員】 西谷桜泉

【會員】 森川雨亭

【一般】 宮坂植田

○関路青 南原代

○福居竹扇 渡邊尚石

○伊藤嘉信 笹倉柳石

○月森康生 木谷治三

○板屋智子 牛島錦輪

○阿部祥庵 田原眞山

○吉田鏡水 奥島春冷

○松永平峰 馬場穆風

○中島保雄 須田桃苑

○三井顔了 長谷部舟

○島藤風 岡田桂舟

○武友草知子 岡上汀華

○鈴木忠草 倉野看雨

○原田泰久 清水信昭

○石場漢州 大野勝山

○浅野祥雲 今西九郎

○近藤明蝶 瀧一六廬

○井本突石 三原大

○中井榮子 中村紀久

○石場漢州 大野勝山

○南敏子 水巻游光

○番定静山 上田静雲

○山口叢映 山崎游石

○松瀬龍子 長原正和

○服部和彦 伊神千博

竹内立女 高野弘深

田中九成 杉原照楓

八木正明 中山翔石

内藤正男 西野克衛

清水正男 伊神千博

側款の書き方(一) 真鍋井蛙

「誰が、いつ、どこで...から始まって、長文までの例・側款の文字数が多いほど、刻料は高い?!」

見出しに書きました側款の文字数により刻料が高いというのは本当の話です。現代、側款毎字いくらという作家もいます。俗な話になりましたが、それだけその印に作家の思いが入っているということ。 (ただし、鶏血や田黄等の美材はその例にあらず)

さて、中国の印人達に多数の側款を見ますが文章が漢文の為、あまり我邦の人々になじみがありません。そこで、今回は、私を例にとつて日本人に分かり易く解説してみたいと思います。

まず自己紹介。
一九五五年、五月六日香川県生まれ。
本名・真鍋昌生、字・長伯、号・井蛙、休厂、別に陳天刃とも号す。居る所を惜墨齋、齊平樓、醉夢堂、掬風亭と称す。

側款の内容

書画にいう落款を篆刻では、多く印材の側面に刻るので「側款」「辺款」または「印款」ともいう。長い文章などが刻られていると「辺跋」「印跋」という言い方もある。

今回は、側款を大きく二項に分けて紹介してみたいと思う。

- (一) 誰が刻したか
・ 姓名字号の書き方
- (二) いつ刻したか
・ 年月日及び年齢の書き方

我々、書画、篆刻をやる者は、名、字、号、の三称を持つとよい (最近では字はあまり使用しなくなり、字と号を同様に使用している人も多い)。

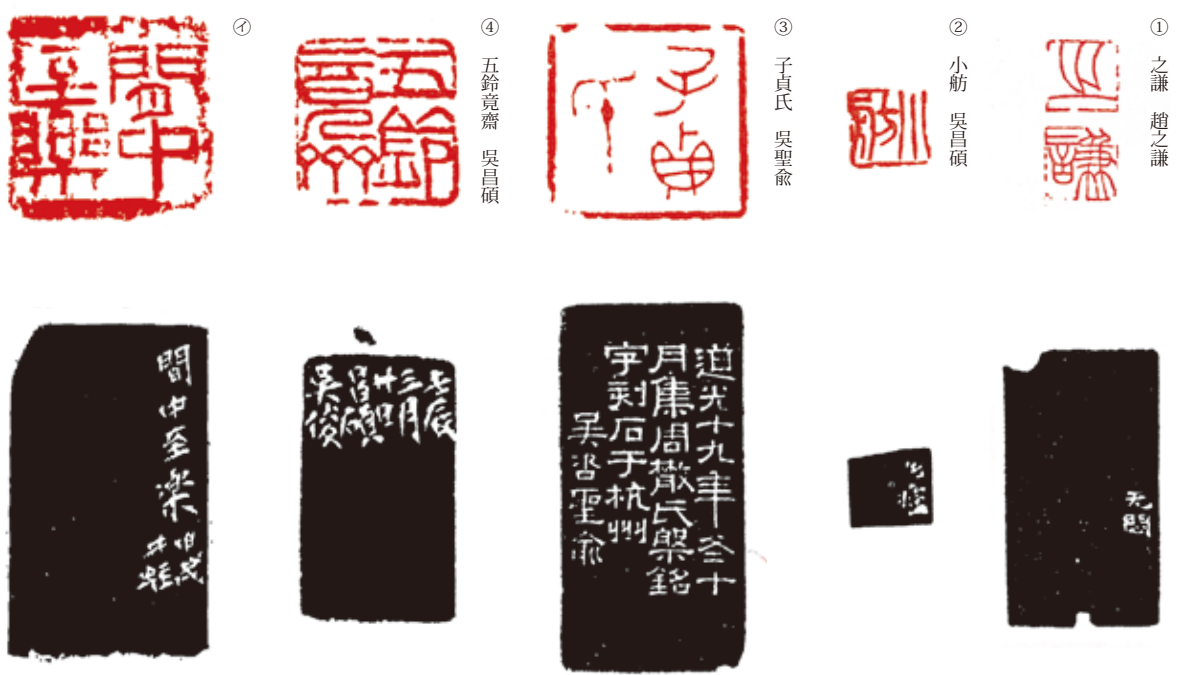
号と字の違いを少々述べてみる。字は男子の場合二十になるとつけ、女子は親同士がいいなづけの約束を交わした後つけられた。先輩に対しては、必ず名を称し、朋友が相呼ぶときは字を以つてした。号は雅称であるので文墨に関わる人はほとんどそれを持つており、一つだけとは限らない。三称はそれぞれ「名」を書するは常なり、字を書するは傲なり、号を書するは雅なり

といわれ目上の人に対しては名を用い、字号は用いないのが原則である。ただ、書画篆刻を業しむ文雅な遊びにおいては、字号などを用いても差し支えない。(ただし、他人に贈る場合や、依頼者のある場合は一考すべきであろう)

例えば、私が梅舒適先生に手紙を出す時、真鍋井蛙とは書かず、必ず真鍋昌生と書く。そして、もし梅舒適先生に「老梅」の印を命刻された場合は無款もしくは、真鍋昌生謹刻、昌生作などとすべきであろうが、印の場合文雅な遊びであるので井蛙謹刻とやっても許されよう。(私は梅先生に対して、井蛙や休厂は使用しなかった)

古人の側款を見てみよう。

- ①の「无悶」は号を単独で使用した例。私なれば④「井蛙」
- ②の「缶廬」は本来室号であるがそこに起居する人を指す。「丁齋」「斗室」「休厂」もその例。
- ③④は字と姓名を併書した例。
- ③のように「呉咨聖俞」として字を姓名の下に配するのが普通である。(呉咨字は聖俞) 私なれば側款に「真鍋昌生長伯」と刻すとよい。(次号につづく)



各印社活動 トピックス

第一四回齊平展



とやや少な目の展示であったが、先生の魅力
を再発見し、業績を偲んだ。

一〇月七日、
九日大阪くらし
の今昔館で開催
した。
今回は、本会
顧問の寺田正孝
先生の遺作展を
併催した。会場
の関係から書画
作品九点、刻印
三点、蔵印二点

テーマ展示、孟浩然の『春暁』は「分刻」
ではなく、各自が思い思いに印を刻し、葉書
大の作品に仕立てて展覧した。約六〇点の同
じ額が並び、過去『四国八十八寺』『七十二
候+二十四節気』に続き、本展の名物になり
つつある。

二〇二二年も同会場で一〇月五日〜七日を
予定しています。ぜひご覧ください。
(東尾高岳)

デザインとして見る篆刻の展開 不華篆会習作展XIX

「華」をサブテーマに生活の中の書・篆刻



不華篆会習
作展XIXを十
月八日から十
日まで伊丹市
立工芸セン
ターB展示室
で開催した。

本年は、「華」をサブ
テーマに生活
の中の書・篆
刻を掲げ、会
員二十人が
オーソドック
スな篆刻作品
と工芸的な手

法を用いた皿、箸置き等の陶器類、紙加工品
類、木加工品類、竹編み籠、袋物等布類、タ
イル、ガラス、彫金ジュエリーや鉄筋を加工



したもの等々
工芸的作品の
計四十五点を
展示した。こ
の展覧会は自
由な発想によ
る作品を発表
できる場とし
て設けられた
ものだけに、

伝統的作品、工芸的作品と相まって生活の中
の書・篆刻を来場者にアピールし好評を得た。
また、同十二日〜二十三日に丹波市の兵庫県
立丹波の森公苑展示ギャラリーで、巡回展と
して同じ内容で開催した。(内田真弓)

第二〇回 遠邇篆会篆刻展

十一月一日から六日までクリエート浜松で開
催した。今回は二〇回展という記念の展覧会
になり、会員の思い思いの篆刻作品が揃っ
た。テーマは自由で、書との融合、絵との融
合作品もあり、会場を賑わせた。会の発足×
ンバーの楠土翠さんは、印文に「遠邇二十回
記念展」と彫



られた作品を
出品、感慨深
さを感じさせ
た。恒例の机
上展示は「篆
刻富嶽三十六
景」、葛飾北齋
の富嶽三十六



景の題名を分
刻した。
総来場者数
は四六七人
「筆とは違う、
石を彫ること
で生まれる線
がいいねえ」
「私でも彫れる
のかしら」などたくさん感想が寄せられた。

「また見に来ました」というリピーターの方
や「癒されるいい展覧会なので、次回あると
きは是非ご案内をください」という方もあ
り、会にとって励みになりたいへん嬉しかっ
た。(竹村美智子)

第一九回 一隅会展

平成二十三年十一月十一日(金)〜十三日
(日)の三日間、大阪市立住まいのミュージ
アム大阪くらしの今昔館ギャラリーにおいて
一隅会展を開催した。

池田泥異、喜多芳邑、黒田玉洲、南岳泉雲、
古溝幽睦の協会役員五人による一隅会展も
十九回目を迎える。大阪、神戸を中心に開催
してきた本展も近年は東京銀座、奈良、淡路
と会場を移し、今回再び大阪での開催となっ
た。三十歳前後の篆刻を志す四人の展覧会か
ら始まり第五回展から五人となり、皆五〇歳
台となった(南岳のみかろうじて四〇歳台)。
事前打合せは一切せず、展示当日に持ち寄っ
た作品を見て壁面の割付をする従来のやり方
は今回も変わっていない。そのため大ききの

いというあまのじゃくの五人であるため、日頃の篆刻研究・書画研究の方向性も五人五様である。メンバーの作品を見て力の差を痛感しやられたと落ち込むことの繰り返しであり、新しいものに挑戦し、そして失敗し、今回もまたマンネリから脱却できなかったという感をそれぞれが抱きながら、次回展へ向けて試行錯誤と切磋琢磨の繰り返しである。

足をお運び頂いた皆様には誠に申し訳なく思うが、もっと良い



大小をはじめ、形態も軸装あり額装あり訳のわからぬものあり、印材も石印あり木印あり陶印ありと、全体の統一感はずけるがそれも個性の表現の一つであると捉えている。

作品そのものについても、他人の追従ではなく他人のしていないことをした



作品を作りたい、もっとうまくなりたいという気持ちの強さだけは共通しているように思う。(黒田玉洲)

第一四回蒼文篆会展



一月二二日〜二三日、大阪美術倶楽部で開催した。蒼文篆会は会名を梅舒適先生に付けていただき昭和五十九年に発足、隔年に展覽会を開催している。

昨三月に訪問し友好を深めた澳門(マカオ)書法篆刻協会の役員作品十点を陳列。江戸時代の文人書画として、与謝蕪村山水図、池大雅菊花図、高芙蓉篆書立軸、浦上玉堂山水扇面、貫名松翁設色画冊等を特別陳列した。特別出品として、先師梅舒適先生の作品を二点展観した。この展覽会に合わせて、何斌澳門書法篆刻協会副理事長ら四人が来日、開幕式に出席した。

三日間の会期中に約七〇〇人の来場者があり、二三日の記念懇親会には約一〇〇人の出席で大いに盛り上がりを見せた。(尾崎蒼石)

第五回篆書社「游藝展」

十二月二十一日(水)から二十五日(日)までの五日間、兵庫県立美術館王子分室、原田の森ギャラリー一階にて開催した。



今回は、前年までのアートのホール神戸から会場を移し、天井が高く、展示スペースも拡大したため、各自大作に取り組み表現方法も多様化し、バラエティーに富んだ展示ができた。

特別展示は、古典臨書の研究の成果として、「歴代碑法帖臨書展」般から清までの六十五選を一挙に展示し好評を得た。(戸出九鷹)



第十七回好日会書篆刻展



一月二十七日から三十一日まで中電岐阜ビルパレットルームにて第十七回展を開催した。地

元での展覽は回を重ねることにより、来場者の書篆刻についての認識の変化が身近に感じられ、楽しい絆の場となった。書と篆刻が融合した作品をめざし、発想を広げ且つ技の練磨のため臨書、篆刻作品、自由作、規格も全紙から半切半分までとして制作した。大寒中にも拘わらず日本篆刻家協会の先生方ご社中の皆さまに遠路お運びいただきご指導賜り深く感謝しています。(田中緑翠)

各印社の活動報告を事務所までお寄せください。(HPにも使えるようになるべくメール等デジタルデータで)

日本と台湾の篆刻交流展

海外交流先を台湾印社とし、五月に開催した第二七回日本篆刻展には三十五人の台湾印社会員が出品された。これを受けて「台日篆刻交流展」が台湾・台北市で開催され、協会役員が作品七六点が台湾側の一〇〇余点とともに展観された。

交流を深めた日台入り混じっての書会



展示会場、作品の前での開幕式



祝賀レセプションのメインテーブル



広い落ち着いた展示会場

夜には天成飯店で祝賀レセプションが行われ日台約一五〇人が参加する盛大なものであった。

刻界の大御所呉平氏、台湾印社周澄社長以下役員・会員多数と山下方亭理事長を団長とする日本篆刻家協会訪台団が出席して盛大に開幕式が行われた。式の後、会場を一巡引き続き台湾印社と日本篆刻家協会の役員による書会が行われ交流を深めた。

展示会場（国立国父紀念館）正面での訪台団一行



風格ある建物の国立歴史博物館



シャッターの降りた入口前で館の紹介をする館員



故宮博物院をバックに記念撮影する第3班

展覧会は、台北市政府（市役所）に近い台北市東部に位置する文化芸能活動の拠点「国立国父紀念館」載之軒・翠亨藝廊を会場に、一〇月二二日から一月三日まで開催され愛好家だけでなく多数の一般市民も鑑賞していた。

二二日午前、許水徳元内政大臣、程建人元外務大臣、曾坤地国立国父紀念館館長ら台湾要人をはじめ台湾書画篆刻界の大御所呉平氏、台湾印社周澄社長以下役員・会員多数と山下方亭理事長を団長とする日本篆刻家協会訪台団が出席して盛大に開幕式が行われた。式の後、会場を一巡引き続き台湾印社と日本篆刻家協会の役員による書会が行われ交流を深めた。

「台日篆刻交流展」開幕に日本篆刻家協会訪台団を派遣

台湾印社との交流展を台北市で開催するのに合わせ、開幕式に参加のため訪台団を一〇月二一日から二五日まで台北市他に派遣した。

訪台団は山下方亭理事長を団長、尾崎蒼石副理事長を副団長、井谷五雲副理事長を秘書長とし計七二人の協会役員・会員が参加する大型の団となった。台北市の国立国父紀念館で開催された「台日篆刻交流展」の開幕式に出席する

とともに書会、レセプション等を通じて台湾篆刻界との交流を深めた。

日程等は別表のとおりであるが、特筆されるのは台湾を代表する博物館三館の参観である。五月の訪日団の一員蔡耀慶氏が展覧組にいる「国立歴史博物館」、休館日に特別に開館してくれた「中央研究院歴史語言研究所・歴史文物陳列館」、台湾を代表する「国立故宮博物院」の参観は貴重な体験となり、メインの交流だけにとどまらず訪台団の目玉ともなった。

舞台上の井谷副理事長



古河市長からの感謝状



本協会に古河市から感謝状

一月十三日古河市中心運動公園の総合体育館で開催された当地恒例の市民の集い「平成二十四年古河市新春のつどい」において、日本篆刻家協会に古河市から感謝状が贈られた。

これは長年、本協会が古河市篆刻美術館の様々な事業への協力、篆刻美術館での役員展の開催、一昨年度からの作品寄贈、昨年の東日本大震災に対する古河市への義捐金贈呈などに対してのもの。

当日は上州特有の空つ風が吹くものの好天氣に恵まれ心地よい日和のなか、多くの市民や地元有力者など約五百人が集う盛大なもので、古河市の表彰条例にそって合計三十五の企業・団体・個人に贈られた。白戸古河市長の挨拶、市長感謝状の贈呈があり、駆けつけた地元選出国會議員や県知事の祝辞が続いた。鏡開きを威勢よく行

い、乾杯。アトラクションには「古河木遣り」が披露され、正月気分も手伝って晴れやかな気分みなぎる楽しい市民の集いであった。

本協会から理事長の代理として井谷五雲副理事長が出席した。

展覧会成績

第四三回日展入選者

入選

- | | | |
|-------|------|------|
| 山下方亭 | 井谷五雲 | 真鍋井蛙 |
| 多田龍淵 | 中島春緑 | 小朴園 |
| 長谷川帰海 | 出田塘葭 | 永井龍法 |
| 平松晃一 | 井後雅堂 | |

第六六回日本書芸院二月審査会

大賞（二科審査員）

- | | | |
|------|------|------|
| 小上玉函 | 渋谷春好 | 下井嶺葉 |
| 東尾高岳 | | |

特選（一科会員）

- | | | |
|------|------|------|
| 池谷宝樹 | 岡田泰道 | 片畑仁美 |
| 金井榴華 | 岸村爽風 | 北田成磊 |
| 久世恵史 | 古在小紳 | 塩見眞一 |
| 白石恭三 | 高橋忠義 | 鷹取麗水 |
| 谷啓子 | 中山翔石 | 濱口韶暉 |
| 東緑園 | 松田仰風 | 三島夕季 |
| 矢倉心華 | 安井芳泉 | 矢吹緑 |
| 山本龍石 | 葉蓉 | |

第六六回日本書芸院二月審査会


史臣賞

- | | | |
|----------|------|------|
| 永井龍法 | 小谷知洲 | 妻島明子 |
| 特別賞（無鑑査） | 西口青咲 | 竹内立女 |
| 古瀬章石 | 花村秀嶽 | 藤本蘇西 |
| 大庭景雲 | | |
| 伊藤浄齋 | | |
| 今西九郎 | | |

準特別賞

- | | | |
|------|-------|------|
| 岡上汀華 | 吉田融石 | 越尾花嶂 |
| 寺田瀧雲 | 永野久美子 | 倉野看雨 |
| 巽聖石 | 尾原衣香 | 柏村丹心 |
| 若山菟川 | | |

2011年日本篆刻家協会訪台団 行程表

- | | |
|-----------|---|
| 10.21 (金) | 日本出国（中部空港 9:45 関西空港 11:20）
午後：台北到着 / 台北見学
国立歴史博物館、龍山寺、総督府（車窓）
夜：夕食後、夜市（夜店） |
| 10.22 (土) | 午前：日台篆刻交流展 開幕式
書会・交流活動
午後：建国玉市（宝玉の市場）
夜：祝賀レセプション |
| 10.23 (日) | 午前：台湾随一の景勝地『夕口峡谷』見学

立霧溪が大理石の岩盤を侵食して形成された大渓谷
午後：東部随一の温泉郷『礁溪温泉』へ |
| 10.24 (月) | 午前：台北へ移動 / 台北見学
中央研究院歴史語言研究所・歴史文物陳列館
午後：故宮博物院 |
| 10.25 (火) | 午前：台北見学、中正記念堂、忠烈祠
台湾出国（中部空港 15:45 関西空港 16:05） |

青鏡三詠(四)

小朴園

「大胆落刀」

小心落筆、大胆落刀。何震の言で布字の際には細心の注意を拂って、その線質・章法を完成させ、いざ刻す段になると一転して大胆に奏刀せよ。という。

が、これが又実に難しい。小生も身体で判るまでは十年以上も経ってからやっと膽氣ながら判ったような気がする。それまでは大胆に刻したつもりでも、後から眺めてみれば布字の線をそのまま正確に刻さんと、ついつい籠字をとるように刻していたものだ。結果、当時の作を見ると、例え章法は良くても感動を生まないものになってしまっている。

大胆に刻してたとえ予定していた布置構成

と違っても篆法から踏みはずすことなく却って新鮮な線や間が生まれる。これが理想ではあるが、それには篆書が身体の中に染み込んでいなければならぬ。篆書を書けという途遠しという感もしようが嘆く勿れ、巧と同時に拙を尊ぶのも又篆刻でもある。

現代中国の刻印は伝統的なものから、それを否定するが如き造形のものまで実に多彩だが、それら斬新な作をつくる人達と話すと決まっただけで、筆と刀とは違ふという。即ち筆跡を見ながら刻しているのではなく、刀痕を見ながら刻り進めているのだ。篆刻は布字を再現する作業ではなく、刀で押し進める芸術だと改めて認識させられる。

展覧会案内

▼随風會(山下方亭)

第二七回随風會篆刻展

会期 四月三日～八日

会場 京都市美術館

特別出品 韓国篆刻学会招待作家

特別陳列 日・韓・中の銅鏡

▼第二八回日本篆刻展

会期 五月一日～二〇日

会場 大阪市立美術館 地下展覧会室

特別展観 中国古詩箋

▼娵輝文会(井谷五雲)

第五回娵輝文会名古屋展

会期 六月一日～一七日

会場 名古屋市民ギャラリー
(名古屋中区役所内)

▼一黙会(二穴碧舟)

一黙会篆刻展

会期 七月一日～一五日

会場 川西市民ギャラリー

▼「第三回六轡会VS第二〇回一隅会」展

会期 八月二日～二六日

会場 京都文化博物館

六轡(井谷五雲・小朴圃・眞鍋井蛙)と

一隅(池田泥異・喜多芳邑・黒田玉洲・

南岳杲露・古溝幽畦)の八人の美術観が

織り成す美の競演

▼蒼文篆会(尾崎蒼石)

草津教室 第八回篆刻書画作品展

会期 九月二〇日～二三日

会場 滋賀県立近代美術館ギャラリー

特別展観 中国の扇面(清～民国)

会員個展

▼古希記念 尾崎蒼石作品展

会期 四月二六日～五月二日

会場 近鉄百貨店アベノ店美術画廊

▼邊見仿厓遺作展

会期 四月二七日～三〇日

会場 アートホール神戸

(兵庫県学校厚生会公館)

協会行事

常務理事会

二月二六日(土)

事務所

平成二四年度 第一回理事会

一月九日(日)

大阪錦城閣

第二回理事会

平成二四年度 総会

講演会 『戦国古璽の魅力』(尾崎蒼石理事長)
懇親会

二月二日(日)

ホテル大阪ベイタワー

第二八回展審査会

三月二四日(土)～二五日(日)

大阪市立中央会館

予定

第二八回日本篆刻展

五月五日(火)～二〇日(日)

大阪市立美術館

第二八回日本篆刻展授賞式

五月二〇日(日)

ホテル大阪ベイタワー

第四回日本篆刻家協会役員展

六月三日(土)～八月二三日(木)

古河市立篆刻美術館

第四回日本篆刻家協会役員展開幕式・講演会

『園田湖城の印について(仮題)』(眞鍋井蛙副理事長)

六月三日(土)

古河市立篆刻美術館

第五回中央研究会

『中国古詩箋と箋譜』(井谷五雲副理事長)

八月二八日(土)～二〇日(月)

シーサイドホテル舞子ヒラ神戸

海外交流

シンガポールでの役員展

十月下旬

常務理事会

二月二日(土)

事務所

予告

第5回 中央研究会

『中国古詩箋と箋譜』

(井谷五雲副理事長)

とき 八月一八日(土)～二〇日(月)

ところ シーサイドホテル

舞子ヒラ神戸

多数の参加をお待ちします。

詳細は、印社代表までお問い合わせください。

編集後記

☆二万人近い死者、行方不明者が出た東日本大震災から一年。今回は地震、津波に加えて原発と、被災状況は厳しく大きく広がっています。被災地からは進まぬ復興に、示されぬスケジュールに苛立ち、辟易する姿が連日マスコミにもあがってきています。十七年前の阪神・淡路大震災でも長くかかりました。その教訓を生かし、いろんな面で支え続けていくことが大切です。自分に何ができるか考え、行動したいものです。

☆理事長が交代しました。山下前理事長二期四年リーダーとして先頭に立っていただきました。お疲れ様でした。会員数の漸減傾向のなか諸問題が山積する現状打破に向け、尾崎新理事長に対する期待も大きいものがあります。会員も一致協力していきましょう。(S)

編集・会報部
酒屋石荘 榊原晴夫
木村容庸 内田真弓

お気づきのこと、ご意見など
事務所までお寄せください。
MAIL FAX 072-760-3853
info@n-tenkoku.jp